かめおか
乳幼児教育
センター

１２月１１日（木）
公開保育「乳幼児期にふさわしい保育を考える」

講師　京都府スーパーバイザー
京都教育大学　教授　古賀松香　さん

公開保育・中部保育所・5歳児・

古賀先生からの指導・助言

保育から見えた保育環境や援助のポイント

●丁寧に作られた環境……自然物を活用・作品の飾り方・造形環境
　➡子どもが使いやすい・見通しやすい工夫があった。造形の美しさ。
　　造ることも、環境も、いつも大人と子どもと一緒に創っていく文化が根付いている。
●子どもの「やりたい」を支える大人の姿勢……子どものつぶやきや「やりたい」を見つける
　➡環境を子どもに寄せていく対応があった。思いが溢れた瞬間に実現できる道が見えると
　　創作意欲を大きく押し上げている。

●五感に開かれた体験……自然物の香り、色、手触り、光、風、空気、温度
　➡日常の中に“美しさ”を感じる機会が多くある環境。
●子ども同士のやりとり、対話やルールづくり
　➡友だちや異年齢と自然に関わる日々。誰かの遊びや発見が他の子の刺激になり遊びの連鎖が見えた。
●保育者の言葉……「やらせるための説明」ではなく、子どもの考えを引き出し、共有し、深める支えだった。
　➡子どもが「自分の思いを大事にしていいんだ」と感じられる環境と援助があった。
●保育者が子どもを心から信じていて、チームとしての保育が文化になっている。
　➡「失敗してもやってごらん」と見守り“自分で選び、決める、やってみる”ことを尊重している。
　　子どもの姿を軸にした保育観がチームで一致していることが感じられた。

さらなる視点・改善ポイント

●対話を支える「言葉の援助」を増やす。
　（例：今つま先で蹴ったね、こうするとまっすぐ飛ぶんだね　など）子どもの工夫を「言葉」にして返すことで、気づきと学びがより深まる。
●子どもが意味をもって友だちとルールを決める場面を大切にする。子どもにとっての「意味」を共有する。
　（例：これはどういう意味があるの？など）先生の管理じゃなく、子どもの内側から出たルールが仲間で共有されていく体験が大切。
●片づけや、並ぶなどのチャンスは数量や見通しが育つチャンス。（例：ペン立てに5本ずつ立てる、椅子は5脚重ねる　など）こういう工夫が就学につながる認識の芽を育てる。
●子どもが遊び込みにくい時の導入の工夫を。「ちょっとやってみる」のきっかけや、誰かの遊びへの“橋渡し”が有効。小さな成功を大人と経験したり、見通しのある環境にして迷いを減らしたりすることも有効。
●“憧れ”が生まれる場面を意図的に。モデルになる友だちの姿、先生の丁寧な手仕事、友だちの制作が見えるようにするなど。
★「やってみたい」の原動力は“憧れ”

公開保育をしてみて

●自分の考える問いに対して、参加のみなさんから様々な意見をいただけた。
●貴重な経験で、ひとつの自信になった。
●より一層、実践の中で保育を追求する者として頑張りたい。

★かめおか乳幼児教育センター　Tel：0771-21-2102　Mail：nyuuyouji@city.kameoka.lg.jp